

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



報々館書圖屋古居立市

行 日 五 十 月 一 年 二 四 四

號 七 十 三 第

教育なるものは共鳴現象であり自己暗示である

一、教育を以て単に學校に限ると云ふことは全然愚の至りである。獨學でも汎く古今東西の書を讀み工夫修養したる者は教育あるものと言はるべきである。孔子は七十にして心の欲する所に従ひ矩を論えずと言はれたが即ち七十まで向上發展した是即ち教育である。

二、教育は死ぬまで行はれるもので又死ぬまで行はれなければならぬものである。

三、學校なるものがあつて先生があり生徒に教へる。是が人間の教育せらるゝ大部分であらうが是が教育の眞の性質ではない。勿論究意的の本體では無い。

四、大なる者も小なる者、優者も劣者、強者も弱者と云ふやうな關係に於てのみ教育は見らるべきものではないもつと深い所に於て教育の意味を發見せなければならぬ。

五、教育學に於て生徒と先生と二元を立てるはよく無い。何か一つの事實それは外では無い教育と云ふ一つの事實を提へたいのである。それには教育といふ事實が如何なる點に集中するかと云ふことを考へて來なければならぬ。

六、從來教育學と言ふ所の者は、大概常識論である。自由主義とか、ダルトンプランであるとか種々いふけれども、常識の上からの主張だ。何等深い所はない。

七、若し一元論の立脚地に立つて教育を唯一の事實であると思つて見るは、大に面白い問題が起つて來るのではないと思ふ。

八、教師に就て習ふだけが教育ではない長上に従つて學ぶのみが教育では無い。或は家庭に於て行はれ、或は小兒に於て行はれ、或は動物に就ても行はれる。寧ろ行住坐臥總ての方面に於て教育は行はれる。

九、然れば教育を人格者たる生徒と人格者たる先生との關係とのみ見ず、唯一の事實と見たら宜いであらうと思ふ。その事實はさういふ所に存在して居るかと言ふに、私は之を以て共鳴の活動であるとするのである。

一〇、人間は宇宙に於て教育せらるべき唯一の事實である。凡ての機會を利用して一定の發達をなさんとする唯一の實在である。社會は自然である。人間の免るべからざる環境である。而して人は競争心もあり名譽心もある、之を放任して置いても一種の教育といふ共鳴現象は當然起つて來る。教師は此共鳴現象を多からしむるものである。其の人格者たらんことを要するは、人格者に共鳴せしめんためである。

一一、宇宙は大なり、其儘統一し維持してゐる。其の活動する所以のものな名けて愛と云ふのである。萬物を以て發展せしむるの力は愛である。雀が兒に餌をやるのも愛である。鳥が親に餌を運ぶのも愛である。人間が之を見て成る程と思つて共鳴するの失張り愛が我々をして活動せしむる所の原動力となつて居るからである。共鳴的感應は愛に出發す。而して此共鳴現象が即ち教育である。

(文部博士 岡田武彦氏著「教育學の哲學」)

内容目次

- ▽十二月館内閱覽統計表
- ▽十二月館外閱覽統計表
- ▽十二月入館兒童學校別調
- ▽十二月入館兒童學年別調
- ▽大正十五年十二月刊新刊圖書
- ▽大正十五年十二月一日寄贈圖書
- ▽昭和元年十二月末調本館藏書數
- ▽市立名古屋圖書館交誼會規約

始



十二月館内閱覽統計表

閱覽人員最高最低
最高 十六日 木曜日 晴 七五五人
最低 廿五日 土曜日 晴 二一七人

職業別	分		和漢書洋書	計	比
	男	女			
總計	1013	1055	1013	1055	100.0
第一類 總計	1013	1055	1013	1055	100.0
第一類 哲學、宗教	1013	1055	1013	1055	100.0
第二類 文學、語學	1013	1055	1013	1055	100.0
第三類 歷史、地誌	1013	1055	1013	1055	100.0
第四類 統計、經濟	1013	1055	1013	1055	100.0
第五類 法政	1013	1055	1013	1055	100.0
第六類 醫學、衛生	1013	1055	1013	1055	100.0
第七類 工業、農學	1013	1055	1013	1055	100.0
第八類 美術、音樂	1013	1055	1013	1055	100.0
第九類 交通、通信	1013	1055	1013	1055	100.0
職業別	男	女	計	一日平均	
學生	1013	1055	1013	1055	100.0
商工業者	1013	1055	1013	1055	100.0
官吏軍人	1013	1055	1013	1055	100.0
宗教家教育家	1013	1055	1013	1055	100.0
記者著述者	1013	1055	1013	1055	100.0
無職業者	1013	1055	1013	1055	100.0
外國人	1013	1055	1013	1055	100.0

十二月館外閱覽統計表

館外圖書借出閱覽人員種別
男 一八七
女 一八七
計 三七四

職業別	分		和漢書洋書	計	比
	男	女			
總計	187	187	187	187	100.0
第一類 總計	187	187	187	187	100.0
第一類 哲學、宗教	187	187	187	187	100.0
第二類 文學、語學	187	187	187	187	100.0
第三類 歷史、地誌	187	187	187	187	100.0
第四類 統計、經濟	187	187	187	187	100.0
第五類 法政	187	187	187	187	100.0
第六類 醫學、衛生	187	187	187	187	100.0
第七類 工業、農學	187	187	187	187	100.0
第八類 美術、音樂	187	187	187	187	100.0
第九類 交通、通信	187	187	187	187	100.0
職業別	男	女	計	一日平均	
學生	187	187	187	187	100.0
商工業者	187	187	187	187	100.0
官吏軍人	187	187	187	187	100.0
宗教家教育家	187	187	187	187	100.0
記者著述者	187	187	187	187	100.0
無職業者	187	187	187	187	100.0
外國人	187	187	187	187	100.0

入館兒童學校別調

入館兒童數	小學校名	入館兒童數	小學校名
164	小松ヶ	164	小松ヶ
128	小針	128	小針
104	早所	104	早所
98	津早	98	津早
77	千種	77	千種
74	小松	74	小松
61	東元	61	東元
49	下田	49	下田
42	日下	42	日下
34	大井	34	大井
30	波寄	30	波寄
25	瑞高	25	瑞高
24	第一	24	第一
21	第三	21	第三
19	廣業	19	廣業
18	廣業	18	廣業
15	南久屋	15	南久屋

入館兒童學年別調

入館兒童數	學年	入館兒童數	學年
658	尋常科六學年	295	尋常科六學年
641	全二學年	238	全二學年
536	全三學年	214	全三學年
490	全四學年	168	全四學年
453	全五學年	121	全五學年
422	高等科一學年	95	高等科一學年
415	尋常科一學年	87	尋常科一學年
388	未就學の者	39	未就學の者
359	高等科二學年	31	高等科二學年
351	中學校一學年	26	中學校一學年
266	中學校二學年	22	中學校二學年
267	中學校三學年	1	中學校三學年
ナシ	全三學年以上	ナシ	全三學年以上
計	3526名	計	1317名

勤學ノ文
勿レ謂今日不レ學而有二來日一
勿レ謂今年不レ學而有二來年一
日月進矣不レ我延一
嗚呼老矣是誰之愆
朱文公

大正十五年十二月新刊圖書十四種

書名	著者名	種類	書號	冊數
一平傑作集	岡本一平著	叢書	三三八—一〇三	三一
暗い庭下(探偵名作選)	又前田晴山著	探偵	三三三—五二	二八
死刑前の六時間(明治文學名著)	英、ステュエシ、オワモニヤ著	探偵	三三三—五〇四	二二
新傾向に代數學が方後編	武田登三著	算術	六四六—四二二	二一
毎日新聞大正十六年新聞社編	新聞社編	新聞	〇二六—五二一	二一
全國男女師範學校第二部入學試驗模範解答	南光社編	模範	二〇七—一八一	一八
實業界三菱王國	大瀧鞍馬著	實業	三三三—五二九	一八
大秘史	栗山周一著	歷史	三三三—五三〇	一七
愛を刻む、ろ	大瀧鞍馬著	小説	三三三—五二八	一七
三井王國	大瀧鞍馬著	小説	〇七四—一〇〇	一七
中實業家出世物語	赤壁徳三郎著	小説	〇七四—一〇〇	一七
現代民論選集	北原白秋著	論議	三三八—六八一	一五
時事年鑑大正十六年	時事新報社	年鑑	〇二六—六一五	一五

寄贈圖書

寄贈圖書	寄贈者
若槻禮次郎	愛知縣學務部
偉度製鋼所報告	其
街路の新設及擴張に関する解説	一
ゴルフ用語詳典 外一部	都市計畫愛知地方委員
人間論 外一部	二 ゴルフダム刊行會
エスマラント模範練習簿本	一 日本エスマラント社
職要覽 外一部	二 大口全三郎氏
憲政會史	名古屋中央職業
悲しき生存	一 憲政會史編纂所
印度と南洋	二 田中清一氏
名古屋市勤業要覽	一 名古屋市役所勤業課
支那在留本邦人及外國人々口統計表	一 外務省亞細亞局
東北帝國大學一覽	其 鐵道省
鐵道省鐵道統計資料	二 鐵道省
杉本堂先生晩年の事蹟外二部	三 武岡堂大氏
樺島石梁遺文	八 樺島石梁先牛顯彰會
學事第二十三報	一 樺島總督府文教局
鳥取高等農林學校一覽	其 校
名古屋高等工業學校一覽	其 校
ベーターの藝術鑑賞	一 關康盛氏
名古屋市西區勢一覽	其 校
大阪市統計書 十四年	其 役所
愛知縣林業報告二十四號	一 愛知縣
加賀藩史稿 外四部	前田利爲氏
名古屋市職員錄	名古屋市役所
臺灣・魚堀に就て	臺灣銀行調查課
福島高等師範學校一覽	其 校

- 第四十日本帝國統計年鑑
- 五回 内閣統計局
 - 海軍及海軍要覽 海軍事務局及委員會
 - 米澤高等工業學校一覽 其 校
 - 鹿兒島高等農林學校一覽 其 校
 - 支那紅十字會ノ活動外二部 三 日本赤十字社
 - 市部先生語集 一名古屋女子商業學校
 - 補充讀本二 一 太田英男氏
 - 噴 一 堀博隆氏
 - 愛知縣史蹟名勝天然記念物調査報告四 一 愛知縣



市立名古屋圖書館

(上) 市立名古屋圖書館員 塚本 壽雄君

ある日のこと、樋口總務より、標記の如き題目の下に、何か感想を述べて見よとの御話もあつたが、未だ組織ある系統立つた考へも無い一應御断りなしたがいよく考へて見ると、相談係其のものは、それが自己の職業であり、自己自らの生活である以上は、物にこそよれ之を御断りするは、自己の生活を否定するに等しければ、何はともあれ、現在自己の腦裏に浮んだ、種々相を遠慮無く書き連ねて見よう。

- 一、讀書相談係の使命
- 二、閱覽要求と讀書相談係
- 三、天候、曜日と閱覽者との關係狀態及其の閱覽要求
- 四、閱覽者の心理と讀書相談係

一、讀書相談係の使命

讀書相談係とは何かといふ質問があるかも知れないから、先づそれから明にして、話を進める事にしよう。簡単に言へば、讀で字の如く讀書の相談相手となるのである。即ち圖書館に於ける参考事務を取扱ふ係なのである。圖書館の参考事務といふのは、文獻となつた凡ゆる材料を蒐集して、公衆の要求により應答することを意味するのである。元來圖書館の使命は凡ゆる文獻を蒐集して公衆の要求に應ずるものであるであつて圖書を蒐集し、整理保管し、その利用のために目錄を編成し、圖書を信託せしめてゐるのである。故に廣義に於ては、圖書館は参考事務のために全活動を爲してゐるとも見る事が出来る。だから圖書館の参考事務といふ事は、畢竟するに、圖書館の使命といふ事になる。此の使命が充分果せるならば、茲にいふ参考係等は殊更に設ける必要はないのであるが、圖書館の蔵書は目錄の檢索によつて求むるのである。此の目錄たるや何れの圖書館にても最も力を盡して編成されてゐる。直接その圖書に接する様な具合には行かぬ、一歩進んで直接圖書に接する様式にしては行かぬ、の圖書は依然死物であつて公衆の思ふ様に利用され兼ねるのである。此に於て参考係の必要が生ずる。此の係は廣義に於ける参考事務を取扱ふもので、圖書館の他の諸係の努力を土臺として、公衆の要求に應答し彼等の勞を省き、直接閱覽の指導に當る係である。公衆のためにより迅速に、より輕便に圖書館を利用せしめんとするのが此係の任務であり使命である。以上で圖書館に於ける参考事務の大体は分つた事と思ふ。據て此の参考事務と参考係なる稱呼であるが、此は Reference Work の譯語から來たものらしいが此の参考……なる語は余りセオリーでない様である、故に我が市立名古屋圖書館では、先に擧げた様な日本式

な讀書相談所と云ふ名稱を附して開設したのである。此なら誰にでも分ると思ふ、だが此の名稱は警察署の人事相談所を聯想し易い。よつて何か好い名稱はないかと探し、名附親は相當に苦んでみたが結局こんな名稱に落着いた。唯帝國圖書館でも之と同姓同名である様に記憶してゐる。

二、閱覽要求と讀書相談係

限りなき閱覽の要求に、限りある蔵書を以て應ずるのであるから、その要求の全部を、完全に充たす事は到底不可能な事に屬する。然し如何にせば最もよく圖書を活用せしめ得るかの能率上の問題は、吾々圖書館員の日夜苦心する所であると共に、その能率を擧ぐるによりよく圖書を蔵すること、いふ事に最も苦慮してゐるのである。米の Meekwin 氏著 The theory of book selection for public libraries (に於て)

There is, of course, some truth in the saying that "A poor collection well administered is better than a good collection badly administered." But though bad administration can certainly reduce to an enormous extent the value of the best library, the best administration cannot do more than is made possible by the quality of the stock.

と云へる如く、其の蔵書の如何は直ちに圖書館の價値を決するものである。如何に管理がよく行き届き、目錄の編成が立派に出来てゐても、蔵書の價値以上の働きを爲さぬといふ事は、吾々が首肯し得る所である。此の如く蔵書が良くなければ、どれ程讀書相談係などが活躍して見た所で、手も足も出たものでない。

此の点では市立名古屋圖書館は基まれてゐるといふ事が出来る。創立日命は淺きに拘はらず、現に六萬有余の眞書を有し、日に月に新、舊刊の蔵書を加へ、比較

的可靠の能率を上げつゝあるのである。此は本館の欣びとするのみならず閱覽者にもよきより、大きくは國家の一大利益でなくてはならぬ。

先にも述べたる如く、此の讀書相談係は、閱覽者にとりては極めて便利な機關であり、圖書館側から見れば閱覽者の要求が奈邊にあるかを知るの便があつて、一舉兩得極めて重寶なものである。かかるが故に近代の進歩せる圖書館にありては此係が最も重要視せられ暫次此の係を特設するばかりでなしに、更に進んで圖書館經營の力点を此の係の上にさへ置かるゝに至つた。此は圖書館利用者の自らなる要求と、圖書館側の自らなる要求とが混合融和して成れる理想の機關であるからである。此の機關がどれ程利用せられるかは、我が讀書相談所が受けた、質疑、相談調査の件數に依つて算想像し得らるゝ。大正十四年十一月十日以降大正十五年九月末日に至る約十一ヶ月に於て、二千二百二十件を受理してゐる。此の數字は何を意味するものであらうか。(内二百五十五件は、閱覽者の要求に應じ兼ねたものがあつた)今その内譯を示せば

自大正十四年十一月十日(開所日)數二五五(六日)
至大正十五年九月三十日(調査日)數二五五(六日)

分類別	要求件數(調査日)	要求不滿意件數	率
總計	二五五	二〇〇	二〇〇
哲學	六四	一一	一一
宗敎	四三	八	八
教育	八九	一七	一七
文學	三三七	四九	四九
語學	八三	一一	一一
歴史	一六五	一八	一八
地理	八四	七	七
法學	一七	一六	一六
經濟	四四	七	七
統計	一五	一	一

①月別取扱件數表

月別(開所日數)	要求件數	要求不滿意件數
十四年		
十一月(一六日)	一一	一一
十二月(二一日)	一四	二七
十五年		
一月(二三日)	一七	二〇
二月(二四日)	二六	一〇
三月(二五日)	二二	三三
四月(二六日)	二二	三七
五月(二六日)	二二	一七
六月(二四日)	二〇	二一
七月(二四日)	一六	一五
八月(二三日)	一四	二四
九月(二四日)	二〇	三五
計(二五六日)	二一五	二五五
一日平均	八、二三	一〇、三三

以上の表に依つて見ると第一表に於ては、産業に関する要求が最も多く、文學之に次ぎ、總記はそれ等

の半ばに過ぎぬ。次で歴史、法制の順で他はずつと低下してゐる。最も少くは通信の七件である。産業の最も多きは何を意味するものであらうか、之等を仔細に觀察して見ると、人生々活と密接な現實的關係がひらいてゐる。圖書館と閱覽者との産業生活關係のパロメーターとして、先の數字を眺めて見ると我々圖書館の貴重な生命を發見することが出来る。彼等は日々の生活のため、又生活上のため何等かの資料を得んとして圖書館へ足を運び、時間と努力と經濟のため、此の相談係を煩はしたものである。本係が最も満足を得るべきは、如何なる件に關しても同じであるが、殊にかゝる直接眼前の生活に關する問題を提供せられた場合に一層の感を得る。又一面此の産業に關する件は、ローカルカラーの發現で即ち名古屋が産業都市である事を如實に物語つてゐるものである。矢田鐵氏の創立にかゝる公衆圖書館、商工業者、商工業者、その資料を蒐集すること云ふのも此等の事情を裏書きしてゐるのである。又他面には商工業者の多くは、時間の余裕なきと同時に、その多くは圖書館の利用に馴れず、従つて讀書相談係を利用する人の多きといふ關係も忘れてならぬ事であらう。さて此等の人々がどんなものを要求したか、勿論産業に關するものであるが、その中から抽出して見ると、銀行會社要録、商工業案内、商店經營、廣告術に關するもの等が最も多いのである。特に注意すべきは、特許に關するものも多き事である。その件數を算すれば三四八件中七〇件の多きに達してゐる。

産業に次で多いのは文學に關するものである。此は何れの圖書館も最も多く要求せらるゝものであつて本館の閱覽圖書統計上より見ると最高位にあるのである。従つて此の最も要求ある文學書に關する相談の多きは必然の結果である。然してその中で最も多く要求

名古屋市立圖書館交誼會規約

- 第一條 本會は會員相互の慶弔親睦を計るを以て目的とす
- 第二條 本會員は市立名古屋圖書館員を以て組織し交誼會と稱す
- 第三條 本會員は本會の目的遂行の爲め毎月各自俸給の百分の一を積立て置くものとす
- 第四條 積立金は如何なる事情あるも返還せず
- 第五條 本會員の一家に慶弔あるときは左記標準により金品を贈呈す
 - 一、本人の初婚及長子女出生の際 金拾圓
 - 二、本人死亡の際 金拾五圓
 - 三、父母、妻父母、妻、長子女死亡の際 金拾圓
 - 四、祖父母、兄弟、姉妹、子女死亡の際 金五圓
 - 五、本人病氣の際 委員に於て輕重を斟酌し金品を贈呈す
 - 六、本人退職の際 本會員一ヶ年以上の在勤者にして退職せる場合は積立金中本人の出額總計の四分の一に該當する金高を贈呈す
 - 七、其 他 前記の外金品贈呈の必要を生じたる場合は委員に於て之が臨機の所置をなすものとす
- 第六條 本會員相互の親睦を計る爲め臨機各種の催をなすべし
- 第七條 第三條第五條の事項を遂行する爲め本會委員三名を置く
- 但委員は本會員中にて互選し任期を一ヶ年とす
- 第八條 本規約に關する一切の費用は本會員の積立金を以て支辨す
- 第九條 第五條に該當する事故發生の場合は本人より其旨委員に申出べし
- 但申出なき時は本規約を執行せざることをあるべし
- 第十條 本規約により金品を贈られたる場合は一切返却せざるものとす
- 第十一條 委員は半期毎に決算報告をなすべし
- 第十二條 本會は本會員の修養に實せんが爲め特に研究部を設置し委員二名を置き研究に關する一切の事務を所理せしむ
- 第十三條 研究部委員の選出及任期は第七條但書に依る
- 第十四條 本規約は本會員五名以上の申出により總會を開き出席の會員半數以上の同意を得るにあらざれば變更することを得ず

昭和二年一月十三日印刷
昭和二年一月十五日發行

名古屋市中區南大津町二丁目三番地
電話本局四二四番

發行所 市立名古屋圖書館
電話東四〇三〇番

編輯 名古屋市中區御器所町字木市二二ノ二
行人 樋口千代松

印刷人 英比貞造
電話本局四二四番

せらるゝのが小説である、新聞に新刊小説の廣告が出るや否やこの要求が現れる、圖書館にはそれだけの手續があつて、それ等が済まぬ内はその要求を充たし得ないのは止むを得ぬ。

特別な要求としては郷土關係の圖書である。此は分類上總記の中に之を含有せしめてあるが、その數は七十七件に及んでゐる、此等に關する註料の蒐集は圖書館として重大な任務である。又近代は兒童の世期さへ云はるゝ程で兒童に對する考へが大いに改まり、之を研究せんとしてその參考書を要求せらるゝ向も非常に多くなつた。中でも兒童の情操教育のために童話を求むる大人がかなりある。その數は三十二件あつた。此の外各種の要求を仔細に解剖して見る事は非常に興味ある事であるが余りに煩雜になる故に、先に掲げた表により大体を御覽願つておく。

本館藏書調

分類	大正十四年十二月末現在	昭和元年二月末現在
總計	三六八	三六二
宗教、哲學	三六二	三六二
教育	二〇三	二〇三
文學、語學	六三六	四七〇
歴史、傳記、地誌	四六四	五九〇
政治、法律、經濟	三〇六	四四六
社會、統計、家政	二八八	一九九
醫學、醫學	二〇三	二二七
工業、兵事	二〇三	二二七
美術、諸藝	二四九	三〇九
産業、交通、通信	二四九	一四六
計	三六〇三	三三三三
洋書	一八〇六	二七九
特殊本	一五八四	一七六六

終